

# 第34回スイス・ビール/ビエンヌ国際夏期音楽アカデミー

34th International Summer Academy Biel/Bienne

クラリネットクラス・講師大谷淳子 2016年7月5日～12日

ビール/ビエンヌ国際夏期音楽アカデミーは、スイスジュラ山脈の麓に位置する街ビール/ビエンヌにて、毎年約2週間のマスタークラスとコンサートが企画され、特に才能ある若い音楽家たちが集まって開催されてきました。

講師群は国際的に様々な活躍している方たちで構成されています。なんといってもこのアカデミーの最大の特徴は、プロフェッショナルなオーケストラとの共演です。受講者たちはこの貴重な機会に、ソリストとしてオーケストラをバックにリハーサルをして、選ばれたメンバーは最終日の一般公開のコンサートで演奏します。また、期間中ピアニストとの合わせも随時可能です。クラリネットクラスのピアニストは、ビール/ビエンヌ劇場のカペルマイスターでもあり、たくさんの音楽的な刺激を受けることでしょう。一般公開のコンサートは、7月7・8日の講師によるコンサートを皮切りに、10・11日の器楽楽器クラスの合同コンサート、オーケストラとの共演は12・13日に行われます。オペラ科は別にコンサートや舞台があります。

## 受講資格

プロの演奏家でも若い音楽学生でも年齢制限なく受けられます。各クラス基本的に最大10名まで、受付先着順で締め切ります。受け付けは、受講料700スイスフランの内の200スイスフランの前金の受領をもって確定いたしますのでご注意ください。

## オーケストラとの共演

Violine, Cello, Clarinet, Piano とオペラ科の生徒のうち、ある一定レベルに達している受講者は、任意で7月8～11日にBudweis管弦楽団とのリハーサルに参加できます。その後、講師と指揮者により7月12・13日の修了コンサートでの出演者を決定いたします。コンサートでは協奏曲の中から一つの楽章またはアリアや小品を演奏していただきます。

## オーケストラとの共演の曲目

編成の都合上、曲目が限られています。(弦5 4 3 3 1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2) 楽譜の準備の関係上、お申込み時に曲目をご提出ください。クラリネットクラスでは、W.A.Mozart : Konzert KV. 622, C.M.v.Weber : Concertino Es-Dur op.26, Concerto Nr.1 f-moll op.73, Concerto Nr.2 Es-Dur op.74, G.Rossini : Introduction, Thème et Variations より選択できます。

(Weber は金管とティンパニを除く)

## レッスン受講曲目

お申込み時に曲目をご提出ください。

## 宿泊・食事

基本的に各自で準備することになっておりますが、クラリネットクラスは講師による斡旋をしております。ホームステイや間借りを希望する方は [www.junko-otani.com](http://www.junko-otani.com) のフォームよりご連絡ください。また、旅行者用インフォメーションセンターTourismus Biel [www.biel-seeland.ch](http://www.biel-seeland.ch) でもホテルなどの情報が得られます。

## 講習会費

器楽楽器科 CHF 700.--

オペラ科 CHF 1'000.--

聴講 無料 (要予約)

オンラインでのお申込み後、早急に前金 CHF 200.--をお支払いいただき、領収書の発行もってお申し込みが確定します。この前金は講習会費の一部として精算されます。オーケストラとの共演に関し、追加料金は発生いたしません。

## お振込先

Raiffeisenbank Bielersee, 2501 Biel/Bienne

Account: Internationale Sommerakademie Biel

IBAN CH80 8083 3000 0064 6081 5

SWIFT RAIFCH22

お申込み先リンク <http://www.somak.ch/> 締め切り 2016年6月20日

## インタビュー

### クラリネットクラス講師 大谷淳子



自分の経験や音楽家としてのキャリアを通して得たものを、マスタークラスやその他の機会に若い音楽家たちに教えたいと思ったきっかけというのがありますか？

大谷・私自身がこだわって探求してきたこと、そしてアレクサンダー・テクニーク（AT）を通して発見できたものがあまりにも多く、今それを必要としている方たちと一緒に更に発展させていきたいと思っています。この想いと、私がすごく遠回りして習得してきた様々な経験があるからこそ、意欲ある学生たちと、個々にあった最適な身体の使い方に裏付けされた奏法を探すお手伝いをしたい、と感じています。

AT をクラリネットのレッスンに取り入れています、普通の楽器のレッスンとは少し違った新しいアプローチになるかもしれません。それによって、今まで困っていたことが嘘のように、自分の可能性を引き出して、音楽家としての潜在能力が最大限に発揮されます。演奏する際に身体が自由になることで、頭も冴え、音楽的なアイデアややりたいことが素直に外に溢れ出てくれるので、自然と自分に自信が持てるようになります。

今日の音楽教育において、若い音楽家たちが将来を見据えるために求められる知識や経験は何だと思いますか？

大谷・音楽大学を卒業して終身雇用の音楽の仕事に就ける人はとても限られています。そのため、広い専門知識や完璧なテクニック、奥深い音楽性を追求することはもとより、それ以外の様々な特殊な知識や資格を活かして、やりたいことを見つけるということが大切だと思います。そして常に興味をもって更に更に進化させていくこと。指揮者やオーケストラ・そしてまた、演奏会の主催者や観客などからの新たな要求に迅速に応えられることが求められています。

このアカデミーではどんな風に教えたいですか？

まずは、生徒それぞれにとって何が今一番必要なことか、何を学ぶのが重要かを伝えたいです。もちろんクラリネットのレパトリーを通して学ぶのですが、オーディションやコンクールの心構えや準備の仕方も含めて見ていきます。クラリネットクラスの講師とはいえ AT 教師の視点からも伝えるため、例えば良い音がしないからといってひたすら毎日ロングトーンやスケールを繰り返したり、できないのは練習が足りないからといって自分を責めてただ長時間練習すれば良いというのではなく、どうやって練習したら効果的かということと一緒に考えていきます。また同時に、身体の使い方を意識的に学ぶことで、自然と自分の中心とバランスを見つけて気持ちに余裕がでてくるでしょう。一週間でどのくらいの効果があるかは人それぞれですが、これからの音楽家人生に役立つ何かを掴んで、心地の良い中で自信を持って自分の音楽を表現していけるようになってほしいと思っています。

(Photo :Joel Schweizer)